

# 平成元年度 社会文教常任委員会 所管事務調査報告書

2019年11月29日

富士見町議会  
議長 矢島 尚 様

社会文教常任委員会  
委員長 川合 弘 人

社会文教常任委員会は、2019年11月11日に新潟県十日町市(人口5.333万)を訪問し、深鉢型土器57点(附871点)合わせて一括928点が国宝指定された火焰型土器群を視察調査し、同11月12日に新潟県糸魚川市(人口4.319万)のフォッサマグナとヒスイの街を訪問し、同市担当課職員から人口減少の実態と対策についての説明を受けました、所管事務調査報告書として下記の通り報告します。

## 記

訪 問 日	2019年11月11日
訪 問 先	新潟県十日町市
視察テーマ	国宝火焰型土器群および新・旧博物館の視察調査
視察参加者	川合弘人、五味仙一、五味平一、名取武一 織田昭雄、矢島 尚議長

### 1. 所管事務調査の目的

原始芸術の最高峰と言われる深鉢型土器としては国内唯一の国宝57点(附871点)の火焰型土器群を実際に見学した。委員全員が国宝の価値を自認し、現在の展示方法、メディアへの周知方法、新博物館建設のプロセスを研修し、同じ縄文中期の水煙渦巻文深鉢を含む素晴らしい土器群を収蔵する我々の井戸尻遺跡に調査結果を反映したい。

### 2. 視察報告

笹山遺跡より出土した火焰型、王冠型深鉢土器群には各々番号が付されている。NO.1の火焰型深鉢土器「縄文雪炎」は凄まじい力強さを

感じ、出土状態も完璧でひびや割れ等の修復跡がほとんどないという背景もあり、改めて国宝になる意味を知りました。

来年6月にオープンする新しい博物館の基本計画から建物建設、展示業務委託に至る全てのフローを研修し、我が井戸尻考古館が直面する老朽化と耐震構造の課題が十日町市でも同じ建替え理由で、旧館の改修案や新館建設案等様々な改修案が入念に検討され、最終的に新館建設案が採択されるに至った苦労話を伺いました。

設計プロセスの説明で国宝の展示、収蔵を行うためのイニシャルコスト、ランニングコストが大きな額で、ため息を余儀なくされました。展示設置中の新博物館の内部を館長のご厚意で見学させていただき、事前説明でのパースの印象より実物は遥かに美しく、「縄文雪炎」をこの新館で見学したいと強く感じました。財政規模が全く違う富士見町で、井戸尻の大切な土器群をどの様に守り、どの様により多くの人に見て頂けることを願い、この調査結果を踏まえた身の丈に合った計画を実現できるよう最善を尽くしたい。



笹山遺跡より出土した火焰型深鉢土器 国宝 No. 1「縄文雪炎」

訪 問 日 2019年11月12日  
訪 問 先 新潟県糸魚川市  
視察テーマ 人口減少の実態と対策について  
視察参加者 川合弘人、五味仙一、五味平一、名取武一  
織田昭雄、矢島 尚議長

## 1. 所管事務調査の目的

糸魚川市の人口減少対策の概要と特徴的な事業内容について話を伺い、現況と実績から今後の課題や展開について説明を受けました。修習した知識を、同じ課題を抱える富士見町で有意義に活用できるよう、参考となる事業を検証し、重要課題の一つであるこの問題を正面から受け止める準備をする。

## 2. 視察報告

2035年前後に高齢人口が生産人口を追い越し、2045年には高齢率が約50%になり、年少人口は右肩下がりに減少して行く「人口統計グラフ」の比較図が糸魚川市人口減少対策係、田村係長より提示されました。総人口の違いはありますが、糸魚川市と富士見町のグラフ値の構成は極めて近似しており、将来に向けてこの問題を何とか抑制したいという願いが会議出席者全員の総意なのだと思いました。様々な人口減少対策メニューの中に「リバイバル25」という事業があり、若者の仲間作りや出会い創出の手段として是非参考にしたい。

( 文責 社会文教常任委員会 副委員長 五味仙一 )



糸魚川市の担当職員から人口減少の実態と対策について説明を受ける  
富士見町議会「社会文教常任委員会」の委員